



稚松はつらつ協議会  
リーダー 平井忠雄さん

### 幸せなまちづくりのヒント①



私たちは自分たちの住む地域を自分たちの工夫と努力で良くして  
いこうと「稚松はつらつ協議会」を市内でいち早く発足させました。



地域の将来像を考え、具体的な取り組みを行うための「地域ビジョン」の作成に向け、準備を進めています。

**横のつながりを深めて  
5つのテーマで地域課題を解決**

「稚松が一番を合言葉に、町内会・老人会・消防団など19の団体からなる協議会を設立した稚松校下。防災、健康、歴史・文化など5つのテーマを掲げてチームを作り、それぞれが連携して地域課題の解決に向けた活動を行っています。

中でも、市内初の試みとなるのが、教育・情報チームが担当するスマートフォンなどの情報共有アプリ「結ネット」の導入です。地域のイベントや町内会の集まりなどの連絡手段としてだけでなく、閲覧の有無が分かることから、災害時の安否確認にも効果が期待されます。

紙の閲覧板は残しつつも、より早く

### 学びを生かして まちに元気の火を灯す

#### 稚松校下で頑張る人に インタビュー



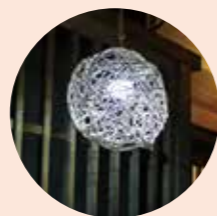
稚松はつらつ協議会  
サブリーダー  
西木裕一さん

こまつ市民大学の「まちづくり実践塾」を受講した経験を生かし、地元を盛り上げるために「灯りまつり」を企画しました。

「まつりを機にいろんな世代が触れ合い、地域の輪が広がってほしい」という思いから、地域住民や県内の大学生を巻き込み、麻ひもを球状に巻きつけて固めた手作りの「ランプシェード」を100個以上制作し、材木町の古き良き町並みをライトアップしました。これからもアイデアを出し合い、地域活性化につなげていきたいです。



◀まつりの後はランプシェードを材木町内に配布。灯りがついているかいないかお互いに気かけ合える温かいまちづくりを進めています。



▶ 町家をやさしく灯す  
ランプシェード

#### CHECK 地域協議会って？

稚松はつらつ協議会をはじめとした「地域協議会」は、校下にある町内会、公民館、消防団など各種団体が連携して地域の課題や将来について考える場としての役割を担います。



また若い世代にも情報を共有できる画期的な手段として注目されています。

# 支えあい♡ 特集 学びあい

～地域の絆で未来へつなげるまちづくり～

問い合わせ はつらつ協働課 ☎24・8397

自然が多いまち、商業施設が多いまち、高齢者の割合が高いまちなど、同じ市内でも校下や町内によってその特徴は様々です。また、子育て世帯や単身世帯など、住んでいる人によって、そのまちの住みやすさについての感じ方も多様化しています。

市では、こうした多様化するまちの課題や要望を行政の力だけでなく、地域の皆さんと一緒に解決することで、よりその地域の実情に合った対策につながるよう、平成30年に「小松市はつらつとした地域とひとづくりの推進に関する条例」を制定し、地域の新しい体制づくりと学びによるひとづくりを推進しています。

今回の特集のテーマは「支えあい・学びあい」。住み慣れたまちで、誰もがこれからもずっと暮らし続けられるように、地域の絆で未来へつなげてこく——

より暮らしやすい、笑顔が広がるまちに向けて頑張る地域の皆さんから、幸せなまちづくりのヒントを見つけてみましょう。





矢田野地区いきいき協議会  
事務局長 西村 博さん

### 幸せなまちづくりのヒント③



矢田野地区では**安心・安全なまち**に向けて、防災士を中心に情報を共有し学び合うことで、地区全体の**防災意識向上**を図っています。



月津校下地域活性化協議会  
事務局長 高辻 聡さん

### 幸せなまちづくりのヒント②



月津校下では、高齢者を中心とした**買い物支援**のため、**乗り合いワゴン**の運行を始めました。



災害に備えて、何を優先して実行すべきかを話し合い、白熱した議論が交わされました。

「安心・安全なまちづくり」を最重要課題と掲げる矢田野地区では、協議会を立ち上げてから地区の防災士28人が定期的に集まり、地域の防災における課題や取り組みの洗い出しを行っています。防災士同士のつながりができたことで、各町の先進的な取り組みや知恵を共有し合うことができ、地区全体の防災意識の底上げにつながっています。

今後は、住民全体に防災の活動を知ってもらい、住民を巻き込みながら課題を一つ一つ解決することで、災害に強い、安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。

### みんな寄れば 文殊の知恵

矢田野

### 住民の不安を解消 乗り合いワゴンで 楽しくお出掛け

月津



利用者からは「行きたいときに自分のペースで買い物に行けるようになった」「近所の仲間とのドライブ中の会話も楽しい」「免許を返納したので助かった」など喜びの声が広がっています。

高齢化率の上昇や独り暮らし世帯の増加など、月津校下では高齢者を中心とした移動手段の確保が課題となっていました。約2年前から乗り合いワゴンの導入を重要テーマと掲げ、今年ついに試験運行がスタートしました。導入に当たっては、住民に運行日時や利用の有無に関するアンケートをとるなど、より地域の実態に合わせた運用を考え、現在週3回の予約制で運

行しています。

また、公立小松大学との連携のほか、利用者がより主体的にルールを決めるなど、持続的な運用に向けた取り組みを進めています。

高齢ドライバーの運転免許返納の機運が全国的に高まる中、地域で支え合うモデル事例となっています。

### 教えて先生！ 住民の主体性が 成功のカギ

生活交通の問題は、食料品店や病院が少ない山間部を中心とした課題だと考えられがちですが、ある程度都市化された地域にも存在し深刻であることを、月津校下の事例は示しています。

こうした外からは見えにくい課題では、住民一人ひとりのニーズや意見を丁寧に確認していくことで、地域としての問題点も明らかになってきます。そのためにも住民同士のコミュニケーションの場を重ね、



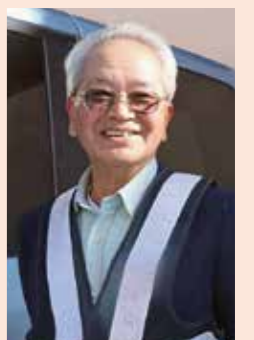
それぞれが主体的に考えたり行動したりしながら、試行錯誤を繰り返すことが必要ではないかと考えています。

公立小松大学  
国際文化交流学部  
准教授 中子富貴子さん

### ドライバーさんに インタビュー

普段から母親や近所の人をスーパーに連れて行くことがあり、地元には移動手段に困っている人が少なくないと感じていました。トラック運転手だった経験もあり、自分にも地域の役に立てることが見つかりうれしいです。

貞 治さん(月津町)



### PICK UP

### 日野自動車株式会社と協定締結 買い物・通勤向けバス運行の 実証実験スタート！

高齢者や外国人労働者の増加など、新しい時代に応じた公共交通の在り方が問われてきている今、市では、日野自動車株式会社及び株式会社ローランド・ベルガーと地域公共交通を生かした魅力あるまちづくりに関する協定を締結しました。

10月からは、利用者の希望に応じて柔軟に運行する「デマンド交通」などの実証実験が矢田野地区と小松鉄工団地でスタートしています。

矢田野地区では、使われていない車両を「らくバスやたの」として活用し、買い物や通院の乗り合いバスを運行。小松鉄工団地では、団地と駅や商業施設を結ぶ通勤・買い物向けのシャトルバスを運行し、利用状況を検証しています。

将来的には、利用者がバス車内や買い物先で友人・知人と楽しくコミュニケーションをとるなど、地域公共交通が新しいコミュニティの場としての役割を担うことも期待されています。



▲らくバスやたの。11月からは、道の駅こまつ木場湯やせせらぎの郷などに運行するお楽しみ企画もスタート。



▲日野自動車(株)新事業企画部の松山耕輔さん(左)と(株)ローランド・ベルガーの内田由美子さん



東陵

100クラブ活用 地域協議会設立

東陵校下では、東部児童センターの応援団「きずな」を結成しました。児童センターで花植えや草刈りを行うなど、利用者にとって心地良い施設づくりを通して、地域活性化と美しいまちづくりにみんなで取り組んでいます。

東陵はつらつ協議会 事務局長 村中 洋さん

東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿で小松市を訪れてくれる選手の国をテーマとした花壇を白嶺町の通りに作りました。私たちがりのおもてなしで、地域や選手の皆さんに喜んでもらえればと思っています。

100クラブ活用



カメラと花の会 代表 村田のり子さん

第一校下はまとまりがあり、様々な場面で団結力を発揮しています。先輩たちが築いてくれた地域の絆を守り、より横のつながりを強くすることで安心安全なまちを目指します。

地域協議会 第一校下あんしん安全協議会 会長 北川辰夫さん



第一

大学のサークルで地域の皆さんと一緒にまちを盛り上げる活動を行っています。今年はベーカリー「サンエトワール」さんとコラボし、共同開発したパンの販売に力を入れています。これからもできることを探しながら地域の一員として頑張ります。



公立小松大学 こまつ活性化サークル 国際文化交流学部2年 岡田さくらさん(右) 田丸佳穂さん

外国人の生活における困りごとを吸い上げ、市や警察などに伝える橋渡し役を担っています。外国人にも住みよいまちに向けて、一丸となって頑張ります。

WINSサポートアドバイザー 代表 郷原トモコさん



## こころひとつに まなびとみんなのちからで つむぐ幸せのまち



未来を創るひとづくり & 共創のまちづくり



災害時、高齢になったとき、子育てで困ったときなど、そのときに助けになってくれるのは、家族やすぐ近くにいる地域の人たちです。人生100年時代、人口減少、災害の増加など、助け合いが必要な時代だからこそ、課題解決のため「地域の力」と「学びの力」が必要です。

自分のため、家族のため、地域のため・・・皆さんの小さなアクションが地域を変える大きな力になります。住み慣れたまちで、誰もがこれからもずっと住み続けられるように、小松が誇る「市民力」と「地域の絆」で、皆さんの幸せの輪を広げていきましょう。

皆さんのアクションを  
応援します!

### ワンハンドレッド 「こまつ100クラス」活動助成

地域貢献活動をこれから始める団体に、活動費用を助成します。

助成上限 5万円

### 「地域協議会」設立支援

あなたの校下でも地域の絆でまちの課題を解決しませんか。市も大学などと連携してサポートします。

支援内容(例)

- 地域ビジョンづくり 上限20万円
- 地域交通(外出支援) 上限100万円 など

今江町は、地域協議会を立ち上げたところです。各団体と連携を強化することで重複した事業の見直しを行うなど、10年、20年先を見据えたまちづくりを知恵を出し合って進めていきたいです。

地域協議会 設立 今江しろやま協議会 会長 嶋茂さん



92歳になりますが、こまつ市民大学を5講座受講し、日々の新たな発見の連続が生きる力となっています。一人ひとりの学びがきっと、地域全体の活力にもつながると思います。

こまつ市民大学受講者 宮本禮三さん

稚松はつらつ協議会の一員として、公民館で排泄ケアの教室を開催しているほか、訪問看護ステーションの運営などを通して、誰もが気軽に交流できる居場所づくりを行っています。今後一人ひとりが輝ける社会に向け、挑戦し続けたいです。



ややのいえ&とんとんひろば 代表 榊原千秋さん

市立高校  
特別授業



市立高校では、地域課題に関する研究に1・2年生が取り組んでいます。「商店街の活性化」「木場潟の水質改善」「通学路の危険箇所」などグループごとにテーマを決め、公立小松大学とも連携しながら、研究を進めています。

今後は、地域や関係団体の人から実際に話を聞くことで現状を把握し、来年6月の発表に向けて課題解決への方策を探ります。